

- 1 「コンビニの世紀コンビニで母殺され」
- 2 「花咲く邦画の遅いリズムよ金無い日」
- 3 「大腿部見せ酒でも飲むか Mi-shima - san の忌」
- 4 「経団連ビルに立ちバターまみれの気分」
- 5 「紳士的なビルの墓場と夜の鸚鵡(おうむ)」
- 6 「点検されすぐに飛びたつ俺の誠実」
- 7 「痰を吐き募金箱からアリスの声」
- 8 「車両は霧へここに舐めつくされた国旗」
- 9 「ナッツは苦く人工知能も肉持つ時代」
- 10 「冷えたデミタス学生それぞれ過疎に住む」
- 11 「善捨てよ鈍行列車の無垢の身体」
- 12 「先祖としてのゴキブリを想う首長演説」
- 13 「アイドルは力ほしがり歪む日輪」
- 14 「海月の感触侮辱のつづく職場の観察」
- 15 「草原消し去りハムレットたち日本で働く」
- 16 「重層労働射精のように走る安い車」
- 17 「生存拒絶のタルタルソースも満足の役場」
- 18 「宦官を演じ好調のコンピューターと島」
- 19 「国家屈伸し僅かな質量のルールブック」
- 20 「軽度の「平成」吐き出し元気な臭い酒場」
- 21 「この暴力！ 春のタクシー千代田区へ」
- 22 「不機嫌な事務はじまる千代田区が光源」
- 23 「コ、コ、コンサバタイプの陰(ほと)が永田町一丁目」
- 24 「青の広告鴉は無数の駅舎に眠り」
- 25 「それぞれ区別の炎をかかえ真昼のデモ」

- 26 学生は地獄へ黒い体はさゝ、さゝ、蛹
- 27 楽な詩も売れ春は汚れた古書店街
- 28 新幹線を巨石と思ひ震える犬
- 29 帝都から首都へ多淫の犬に触れる雨
- 30 大理石に唾液落ちてゆく赤のホテル
- 31 冬のアパート性交の汗も正義のつもり
- 32 アパート内に静かな勅を知らないか
- 33 贅の時代の地上の俺と地下の鳩
- 34 議題は漂泊高速化する俺たちの酒
- 35 エレベーターに汗ばみ蓄となる政治
- 36 議員は泣いて不自然な柔術の俺の国
- 37 精神論の悲しさ最終列車は音楽吐く
- 38 券売機前に娘の伸縮飯吐く俺
- 39 重力選挙に植物となり一日過ごす
- 40 忘れられてデパートに大豆のような男児
- 41 扇風機つかむ腕の肥満の現代史
- 42 平凡しりぞけ酒飲む背後の都市の滝
- 43 姦土狂土に今日も悲鳴の鞆の群
- 44 ラブソングも蛆の曲真夜中の安い蕎麦
- 45 議事堂到着地の蛞蝓の青い記憶
- 46 メガホンから所有流れて嫌な木ども
- 47 青春解読しペンを持つ手は灯油臭く
- 48 金増えてきて有権の俺の手にチキンの骨
- 49 近未来へ神風のサラリーマンと雨にうたれる
- 50 スーパーヒーローの筋肉はこれゝ、からゝ、の神

- 51 万人創作世界の滝を浴びている――
- 52 〔人間独立〕ドラッグストアに満ちて夏――
- 53 全員無言コンクリートに鷲を描き――
- 54 深夜駅舎に不快なほどの白い鳥Ⅱ人体――
- 55 蛩一般公開陰気な時計を身に着ける者たち――
- 56 〔南島の少女工場生産のおでんを売る Tokyo〕――
- 57 〔眼球疲れメタルの東京なぜ現実〕――
- 58 〔面接会場に金属の獅子怒る自分〕――
- 59 〔注意！ 戦士が闇鍋をする法務省〕――
- 60 〔原始の食欲夜から夜へ韓国街〕――
- 61 〔寿司と満月喰う失ゝ、失業のゝ、アメリカ人〕――
- 62 〔眼帯の女が消えるドラマの平和〕――
- 63 〔カラフルに怒鳴る中年熱帯夜〕――
- 64 〔火炎となる午前靖国神社の柔らかいベンチに〕――
- 65 〔合成酒の胴体に触れ指は兵〕――
- 66 〔どぶろく波立ち性愛論のメカニカル〕――
- 67 〔おまえも悪霊桃を並べる歓楽街〕――
- 68 〔真実の車を潰しファウストは日系〕――
- 69 〔闇に寝てトーキョーの葉は逮捕状〕――
- 70 〔頑丈な弁当 占いとしての事務だよな〕――
- 71 〔覚醒から遠ざかり俺の骨を覆う外套〕――
- 72 〔ドル紙幣の空白を監視する四月の幼児〕――
- 73 〔鳥あつまる過食の家の冷たい庭〕――
- 74 〔ガキ共の暴行おわり光る桜〕――
- 75 〔緑の斜塔俺らに官能教える百舌鳥（もず）〕――

- 76 万緑の夜にアジアの螺子生まれる―
- 77 下マト腐る 緑の斜塔に立ち止まり―
- 78 狐怒鳴る 隷属の酒そそぐとき―
- 79 公園に自由なく大きい蟻を口に入れる―
- 80 俺の屈辱住む鉄塔の影の中―
- 81 蝗に生まれて同じ陸地があるだろうか―
- 82 「駅は、、、火口だ。」袋の中のケーキは半額―
- 83 向日葵の美知るときに来る Hitler―
- 84 蒲公英に無限軌道はためらいの褒美―
- 85 過疎の村に巨大な鮫が山車である―
- 86 赤く照らされ欲のストウーパ崩れる祭―
- 87 昆虫自爆させ進む綺麗な朝の森のワーゲン―
- 88 能率的な肉親といて鎮まる海―
- 89 書物地獄に蠅は交尾し首吊る偉人―
- 90 尿で毛虫殺し真夏の孤児は今日を飛ぶ―
- 91 獣姦の記録だろうか向日葵こわれ―
- 92 ブロンズの馬も言語の大花野―
- 93 黒土に手を入れ蛇との交尾は咎―
- 94 田舎放棄の女とともに踏み割る海胆―
- 95 レストランに俳人ども暗く無用な指揮―
- 96 句碑を見つめてほとんど軍用犬のような人生―
- 97 雑に桃喰い頭の中の二等兵―
- 98 木材を叩き少女はテミスの分身へ―
- 99 血の蛇血の鳥自転車でゆく廃工場―
- 100 現代言語のかけらとしては寒い村―